フォルム NO.333 Since 1956
日文教育資料［図画工作・美術］

形 forme

特集

もっと教えやすく、
使いやすくなった

令和7年度版
中学校 美術教科書

裏表紙にわたって
作品が掲載されています！

日文のWebサイト
日文

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。
令和7年（2025年）度版　中学校美術科内容解説資料として扱われます。

心が動く、その先へ。
日本文教出版

特集　令和7年度版 中学校美術教科書

現行教科書をさらにアップデート！

この教科書で授業がしてみたい！

今回の特集は、令和７年度から改訂される新しい中学校の美術の教科書をご紹介します。先生方の職場環境の変化や生徒の変容にも対応しながら、どんな立場の先生でも教えやすく、生徒にとっては学びやすいようアップデートした、新しい教科書の２つの特徴を取り上げます。「授業の見通しが持てる紙面」と、「題材導入QRコンテンツ」について、教科書編集委員の対話を通して紐解きます。

題材導入QRコンテンツ

題材の導入動画「学びのはじめに」を、
教科書3冊全50題材全てに設置。
“何を学ぶのか”を、まず動画で確認できます。

〈 鑑賞の入り口 〉

題材で作品を鑑賞する際の、
造形的な見方・考え方に気付かせる
シンプルな言葉での問い掛けです。

〈 造形的な視点 〉

造形的な視点〔共通事項〕や
考えさせたい効果など、
題材で着目させたいポイントを
示しています。

表現のヒント

表現活動における発想・構想の手立て。
技能面の補足を紹介しています。

特集❷
対談 P.8～11

題材導入動画「学びのはじめに」で授業がしてみたい！

特集❶
対談 P.4～7

鑑賞の入り口／造形的な視点／表現のヒントで授業がしてみたい！

対談の動画はこちら！

特集 2

教科書の仕組みが
もっと具体的に分かります。

特集 1

＼ 応援しています！ ／

中学校美術の先生応援サイト
中美チュービ はこちら！

はじめに

『形 forme』は広く現代社会の要求に応える美術教育の理論と実践の紹介を目的として一九五六年に創刊されました。以来六〇年を超える長きにわたって、美術教育に寄り添って刊行を続けています。

『形 forme』という書名は造形と人間形成をシンボライズしたものです。子どもたちのための美術教育に取り組んでおられる先生方、美術や造形にかかわるすべての方々、そして保護者の皆様のために、これからも、よりよい美術教育を目指す道標となる内容を目指していきます。

Index No.333

③ **特集 令和7年度版 中学校美術教科書 この教科書で授業がしてみたい！**
- 特集1　鑑賞の入り口／造形的な視点／表現のヒントで授業がしてみたい！
- 特集2　題材導入動画「学びのはじめに」で授業がしてみたい！

⑫ **学びのフロンティア（小学校）**
学びをつなぎ、成長へ　朝野祥子

⑭ **村上センセイの　教科書利用のススメ**
｜第9回｜　兵庫県　神戸市立有野北中学校 元木隆久

⑯ **まず見る**
｜第36回｜　遠近を見る　成相 肇

⑱ **ABC PICK UP**
阿部宏行

表紙について

ジョルジュ・スーラ「グランド・ジャット島の日曜日の午後」（美術1・表紙）。新しい教科書では、各冊裏表紙にわたって作品を掲載し、巻頭ページまでテーマを一体化させています。特に教科書裏表紙の二次元コードでは、美術との出会いに関わるオリエンテーション動画になっています。

編集・デザイン：東京ピンポン
［P.2～11 特集］
編集・取材：明石康正（PAD）
撮影：田村裕未（アーク・コミュニケーションズ）
動画・編集：映像工房たまき

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。

例：｜小｜中｜高｜　特に中学校に関連の強いコーナーを表します。

特集 ❶

国立市立国立第二中学校 教諭
長尾（ながお） 菊絵（きくえ）

武蔵野美術大学油絵科卒。教鞭を執る傍ら、東京都中学校美術教育研究会局長、東京都教師道場リーダーなども務める。

横浜国立大学 教授
横浜国立大学附属横浜中学校 校長
松原（まつばら） 雅俊（まさとし）

東京学芸大学教育学部卒。横浜国立大学教育学研究科修士課程修了。横浜市教育委員会事務局教育課程推進室室長などを歴任。代表著作者の一人。

〈鑑賞の入り口〉〈造形的な視点〉表現のヒント で 授業がしてみたい！

今回の新しい教科書の題材ページは、先生の指導のしやすさを考えより改良した紙面構成です。
学年の成長に応じた着目させたい造形的な見方・考え方の問いかけをはじめ、
授業の流れを組み立てやすい3つの要素を解説します。

※対談の動画は3ページに掲載の二次元コードよりご覧いただけます。
※掲載されている所属先は令和5年度の情報です。

全ての題材に授業の流れが見える 3つの要素がついています！

※「表現のヒント」は表現題材のみ。

「鑑賞の入り口」「造形的な視点」「表現のヒント」の3つの要素

松原　最近は美術の先生がとても多様化している印象です。もちろん美術専門の先生もいらっしゃいますが、他教科と兼務する方もいる。年齢も経験もバラバラで、若い先生も多くなっています。今回の教科書では、**どんな立場の先生でも〝使いやすい〟教科書**をコンセプトに、「学習指導要領」を実現するためのポイントを、分かりやすい言葉で生徒に投げかけられるように題材に落とし込んでいるところが、大きな特徴だと思います。**まずは授業づくりのとっかかりとなる「鑑賞の入り口」、次に美術で最も大切な形や色彩、イメージに関わってくる「造形的な視点」、学習を進めていく上で発想・構想の手助けとなる「表現のヒント」。**

この3つの要素で構造化することで、より授業が組み立てやすくなると考えました。

長尾　構造化されている教科書は多くの先生たちの助けとなります。私はここ5年ほど指導教諭として公開授業を行っていて、そうした活動の中で若手からベテランまでざっくばらんに話す機会が多くありますが、**「ベテランの美術の先生でも最近は教科書を使っている」**という話題が出てきます。ひと昔前は「教科書を使わなければ授業をできないなんて……」みたいな風潮があったと思うのですが、今は使っていらっしゃる先生も多いです。しかし、現在の教育現場の課題の一つに挙げられるのは、コロナ禍で、若手の先生が研究会にあまり参加できなくなったことです。外で学ぶ機会をあまりもてなかった世代の先生は、どう授業をつくったらいいか分からず、一人で苦しんでいることが多く見られます。

松原　そうですね。教科を問わず悩んでいる先生は多いと思います。

長尾　今回は、そんな先生たちに教科書を使って授業を行うことでどんなに授業がしやすくなるかということを伝えられたらと思っています。

まず「問い」を持つ大切さ「鑑賞の入り口」

松原　「鑑賞の入り口」は、題材の持つエッセンス、視点をどこに置けばいいのかのアドバイスに徹しています。生徒がこれをもとに、自分たちなりの問いを生み出していく仕掛けを用意しようと考えました。疑問形で書いてあるのは、教師と生徒がこの問いを共有していくためです。

POINT.1 参照

長尾　これ以上練られた発問の言葉を、自分で考えるのは大変ですね。**「鑑賞の入り口」は主発問になっていて、学習の最後にまたそこに戻ることで、何を学んだのかの伏線回収ができるところが素晴らしいですし、付けさせたい力と、生徒のしたいことがブレない効果もあると思います。**

ブレない学びのために「造形的な視点」

長尾　「造形的な視点」は、その題材で着目させたいポイントを明確に平易な言葉で伝えていますね。生徒たちはよく自分の物語を優先してしまいがちですが、制作途中にこの**「造形的な視点」に戻ることで、先生も生徒もそのブレに気付くんじゃないでしょうか。**私は黒板に「造形的な視点」を書いています。ポイントでここに立ち返ることで、生徒たちがすっと実行に移せる効果もある

題材導入動画
「学びのはじめに」

詳しくは、p.8-11「特集2」参照。

POINT.1 造形的な見方・考え方に気付かせる主発問

＋ 〈鑑賞の入り口〉その人の人柄（ひとがら）や心情はどこから感じられるのだろうか。

この題材を貫く問いを題材名の下に示しました。導入動画「学びのはじめに」と合わせて、“何を学ぶのか”を明確にします。

美術1 p.18・19
「人間っておもしろい」で
3つの要素を紹介！

“ながめるだけで学びに気付く
自分自身で学びを発見できるのは
美術の教科書の力！（長尾）”

と思います。

松原　授業のユニバーサルデザイン化という発想ですね。生徒たちはそれぞれに考え方とかインプットの癖は違うわけで、そうした違いを大切にしながら、学びの目的を共有した授業を行っていく。「学習指導要領」も昭和、平成と続いてきた知識を詰め込むコンテンツベースから、生徒たちの探究ベースへと重心が移りました。**生徒たちが題材を自分ごととして捉えて主体的に取り組み、他者との対話の中で主題を追求して鑑賞したり表現したりしていく思考が大事**だと思います。 POINT.2 参照

長尾　教師も生徒も教科書を使い慣れてくると、ながめながら自分自身で先の見通しを持って学べるようになる。それが主体性につながっていくのではないでしょうか。**今後は生徒たちにどれだけ委ねることができるのか**ということが大切になってくると思います。それは、図工・美術で身に付けられる**未来に向かう力**になりますよね。

松原　たくさん委ねることはとても大事なことですけれど、無計画にやってしまって放牧状態になる授業もよくないですよね。放牧状態でもない、レールでもない、ちょうどいいさじ加減の授業を先生たちが展開するために、この考え方というのはうまく生かされるのかなと思います。

発想・構想をうながし技能面の広がりを補足する「表現のヒント」

長尾　「表現のヒント」は、主題を生み出すときや制作するときに、**視点の広がりや深まりがヒントになるだけでなく、短い言葉で書かれている**ところを先生方に気付いてほしいです。例えば、生徒が動物の立体作品をつくるときに、ゆるキャラみたいになりがちなんですが、この「表現のヒント」にあるような動物の骨格、筋肉の付き方を知ることで、造形の仕方は変わってきます。これも「鑑賞の入り口」と「造形的な視点」がリンクしているので、ずっと取り組みが続いていることが伝えられたらと思います。

松原　「表現のヒント」には**生徒たちにとって読みたくなる、やってみたくなるヒントが詰まっている**と思います。困っていることの原因や解決への糸口をつかめると思います。美術の楽しさを実現していくための手立てを提供しているし、先生にとっては、授業づくりの視点として、**発想・構想の耕しや、技能の強化とかの具体的な視点になっているのではないでしょうか。** POINT.3 参照

“自分で見通しを持って、
目標を実現していく。
生徒たちは「未来に向かう力」を
美術で学びます（松原）”

様々な先生に寄り添う授業の構造化

長尾　授業の導入に設けられている、**題材導入動画「学びのはじめに」**も本当にありがたいです。導入の時間短縮にもつながり、押さえなければならないことがすっと入ってくるので、若手からベテランまで大いに役立ちます。 P.8-11「特集2」参照

松原　美術の先生は一人でたくさんのクラスを受け持つことが多いですからね。

長尾　私も学校経営やその他の業務でいっぱいいっぱいで、授業に手が回らなかった苦い経験があります。

原寸大図版で大きさや細部の表現を体感！

導入の資料を用意するのはとても大変なので、導入がスムーズになるだけで、助かる先生は多いと思います。

松原　「教師用指導書 朱書編」も、具体的な指導の手立てや3つの要素による学習のつくり方、評価基準も見開きページの中に集約されているので、授業で困っている先生のサポートになるはずです。目標と評価の関係も示されているので、先生たちが指導と評価の一体化を図っていく上で、とても有効な資料になっていると思います。 POINT.4 参照

長尾　「学習指導要領」を初任者が一人で読み解くのは難しいですよね。その解釈が指導書に分かりやすくまとめられているのはとても助かりますし、教科書の全ての題材に導入動画があり、「鑑賞の入り口」「造形的な視点」「表現のヒント」と要素が3つに絞り込まれて、それらが連動していることで、**授業の進め方もイメージしやすい。**押さえたいポイントがブレない安心感があります。3つの要素が連動していくことによって、生徒がしっかりと資質・能力を身に付けていけるような授業づくりに役立つ教科書になっていると思います。

松原　3冊を通して、各学年の成長に合った美術を学ぶことができ、題材ごとに**目標と評価の関係がしっかり埋め込まれているので、指導と評価を一体的に扱うことができる**ことも強調したいです。

POINT.4 「教師用指導書 朱書編」も使いたい！

日々の授業づくりから題材開発や研究にまで活用できるように、ニーズに合わせた多様な資料を、題材ごとにご用意しました。

注目 **指導のポイント**
題材の関心の持たせ方、ICT機器の活用方法など、題材のねらいを達成するための具体的な手立てや工夫を紹介しています。

注目 **教科書でつくる学習の流れ**
「鑑賞の入り口」「造形的な視点」「表現のヒント」を活用した授業の流れを示しています。

ページのねらい
この題材の活動を通して育てたい資質・能力や、生徒に気付かせたい（共通事項）の観点を解説しています。

題材の評価規準の例
題材の評価規準例を3観点6項目で示しています。

作家作品・生徒作品・作家の紹介
掲載されている作家や生徒作品、作家情報について解説しています。

POINT.3 「造形的な視点」を達成するには？

表現のヒント
ポーズを取り合い構想を練る
友だちにポーズを取ってもらい、いろいろな角度からしぐさや表情を見ながら、表したいことを考えよう。

ICT
真正面や左右、後ろなど、方向を変えると見えてくることが変わる。目線も上下に変えるなど、さまざまな視点から見ることで、その人らしさを探ってみよう。

「表現のヒント」では、発想・構想の手立てや技術面の補足などを示しています。情報機器を活用しながらその人らしさを探り、描く人物の表したいことを考えるための手立てを紹介しています。

POINT.2 より明確になった「造形的な視点」

〈造形的な視点〉
顔の角度や表情、しぐさ、色彩などに着目し、どのように生かすか考えよう。

「鑑賞の入り口」や主文の問いに対して、顔の角度やしぐさ、色彩などの着目させたい造形的な視点や考えさせたい効果などを生徒に伝えます。

＼指導にそのまま活用できる！／

「発想・構想の手立て」をもっと分かりやすく、充実させました！

作品制作の着想から完成までの表現活動の一連のプロセスを、生徒に分かりやすいよう4ページ構成で紹介しています。授業で活用できる手立てや、アーティストの制作の様子を教科書紙面や動画資料で充実させました。

生徒目線の活動サイクルを提示

美術1p.60･61「発想・構想の手立て②」 鑑賞する より

アーティストの事例

鈴木康広さん

田中達也さん

作品につながる発想法やどんな作品をつくるかを構想する様子、工夫など、作家ならではの活動を紹介。

鈴木さんのスケッチ

田中さんの撮影風景

美術1p.58･59「発想・構想の手立て①／鈴木康広、田中達也」

特集❷

＼どんな先生にも使いやすく、授業準備の負担を軽減／

題材導入動画「学びのはじめに」で授業がしてみたい！

日文の発行する新しい中学校美術の教科書には３冊全ての題材に、
導入動画「学びのはじめに」が二次元コードで掲載されています。
そのねらいや効果、使い方などを、
教科書編集委員のお二人が教育現場の視点で紹介します。

※対談・題材導入動画ともに3ページに掲載の二次元コードよりご覧いただけます。
※掲載されている所属先は令和5年度の情報です。

横浜市立東山田中学校 教諭
荻島 千佳（おぎしま ちか）
武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒。神奈川県公立中学校教育研究会教育部会研究部副部長。モットーは「美術は学問である」。

さいたま市立大宮南中学校 教諭
高藤 友輔（たかふじ ゆうすけ）
埼玉大学教育学部卒。埼玉大学教育学部附属中学校教諭を経て、2019年より現職。埼玉県や市の教育課程資料の作成も担当する。

全題材の主文に二次元コードを新設！

全題材に導入動画を付けたわけ

高藤　新しい教科書の大きなポイントは、**全ての題材に導入動画「学びのはじめに」が付いた**ことですね。これはどのようなきっかけで生まれたのでしょうか。

荻島　まず**先生たちの働き方改革を進めたい**という思いがありました。美術の先生は皆さん、心血を注いで題材の導入を考え、膨大な資料と向き合い、そこからスライドをつくるなどの努力をしていらっしゃいます。通常の業務で忙しい中、こうした準備をするのは本当に大変なんです！　そこで導入部分の資料作成だけでも、少し肩代わりできないかと考えました。

高藤　分かります……。しっかりと導入部分の資料をつくろうと思うと、それはもう大変な労力が必要ですよね。まず、アプリケーションの使い方を覚えて画像を探して、どういう順番で並べたら効果的なのか考えて……。使うときは画面をどこで止めて、どういう助言をすればいいか考えて……。特に若い先生だとそこまで辿りつけない可能性もあるので、その時間が短縮されるという点でも、すごく現場を助けるツールになると思います。

POINT.1 参照

荻島　もう一つの大きなきっかけは、全国で30万人※に達しようとしている不登校児童・生徒の存在です。自宅など学校以外の場所で学ぼうとしていたり、美術が専門ではない教師に教わっていたりと、生徒たちの置かれた環境は様々。そうした生徒たちにも届くコンテンツがあれば、学びの中心もズレることなく、**全国津々浦々、同じように資質・能力を引き出すための授業ができる**んじゃないかなと思ったんです。

高藤　どこでも見られる動画であることが大事ですね。

荻島　私はYouTubeチャンネルをつくって授業用の動画をアップしているのですが、生徒たちは動画だと分かりやすいとよく言ってくれます。分からない箇所を繰り返し確認して制作に移るのを見ていると、動画の威力はすごいと感じますね。文字の時代から写真の時代を経て、動画こそ現在の生徒たちのリアルだと感じています。だとしたら、私たちの教え方も変化させていくべきではないでしょうか。

高藤　いまやっと、1人1台、端末を使う環境が定着しつつあるみたいですが、実際は学校よりも家庭で使うことが多いようです。そうなると保護者も一緒に見ることができます。近年、「子どもがつくった美術作品に対してどう声を掛けたらいいか分からない」と言う保護者が増えたようなのですが、生徒と一緒に見ることで、何を学んでいるかが分かり、注目すべきポイントが分かるというメリットもありますね。

荻島　私も保護者から問合せを受けます。そのため、コンテンツ制作時は、**どのような力を付ける題材かが分かりやすい**ように気を配りました。保護者が見て、何を学ぶかが分かるようになっていれば、家庭で語り合うことができる。それも導入動画のいいところだと思います。

POINT.2 参照

30人30通りの発想を生む〝余白〟

荻島　導入動画は、**主文に書かれた題材の狙いをもとに動画を構成**しましたが、30人の生徒がいたら30通り

※文部科学省資料による（令和5年10月4日公表）

POINT.2 家庭でも見られることの利点とは？

「美術の学びは、他の教科と違い正解がありません。生徒がつくった美術作品に、家庭でどう声を掛けていいか分からないという保護者は多いです。導入動画を見ていただければ注目すべきポイントが分かるので、“上手にできたね”で終わらない感想を伝えてあげてほしいですね」（高藤）

POINT.1 見やすさの秘訣は「短時間」！

1分間の動画には180万語分の情報量があるそう。180万語分を口頭で伝えると、50分近くかかってしまいます。“生徒たちに伝えたいことは山ほどあるのに時間が足りない”という悩みも、2分程度の導入動画がカバーしてくれます。（荻島）

“生徒が興味を持った箇所で止めて、考えて、発想して言語活動が増えていくと思います（高藤）”

の発想が生まれてほしいとの想いから、動画に入れた先生と生徒の対話にはあえて作品の解説、感想は入れていません。普段の授業でも**「どこまで問うか」のさじ加減を大切**にしています。動画に入れるセリフも「目の前に生徒がいたら何て言うだろう」と考えながらつくりました。

高藤　目の前に生徒がいると教え込んでしまいがちで、そうすると生徒の発想は枠の外には飛んでいかない。教えなければならない内容も押さえつつ、枠の外にはみ出させるための助言が難しいんです。

荻島　そうなんです。一人ひとり違う生徒にどこまで教えるかというのが本当に難しいので、**短い動画の会話にも、考える〝間〟を意識して**つくりました。題材の導入のための資料提供という側面を重視しつつ、言いすぎないことで、先生によってはアレンジしたり、何かを足したりしやすくなっています。動画を途中で止めて生徒たちに「どう思う？」と問い掛けて、自由に発言させて、また再生するという使い方も効果的です。**導入のための導入ではなく、授業に〝使える〟教材**にするということにとても気を遣いました。

POINT.3 参照

高藤　私たち教師は「生徒にどんな力を付けさせたいか」という視点を明確にする授業展開を構成しなくてはなりません。特に美術は、教科書に「イメージしてみよう」と書いてあるからといって、教師が形や色彩を限定してしまうと、生徒たちの発想は止まってしまいます。特に若い先生にとっては、この〝寸前で止める〟ことは難しいでしょうね。

荻島　そのさじ加減は経験を積まないと見えてこないものですね。「学習指導要領」を解説まで熟読するのは本当に大変だと思うんですが、導入動画にはそれが網羅されているので、「こういう学びなんだ」って気付いてもらえるのではないかと思っています。**誰もが同じクオリティの授業ができる内容**をめざしました。

学びが他人ごとから「自分ごと」に変わる瞬間

高藤　実際の美術の教育現場で、「学びのはじめに」はどのように活用できるのでしょうか。

荻島　**生徒は自分が見たい場面でストップして見ることができるということです。自分の琴線に触れた部分で静止させることで、じっくりと作品と向き合いながら、自分の興味に基づいて学ぶことができます。この瞬間こそ、他人ごとだった授業内容が自分ごとに変わる瞬間**なんです。

高藤　学校生活全般で、「自分ごと」は大事だけれど難しいと感じています。生徒が「～しましょう」とよく発表するのですが、この言い方は人ごとになりがちなので、私は「～します」と意思を示すようにと教えています。だから、この導入動画で生徒が興味を持った箇所で止めて考えたりできるのはすごく重要。動画が発想をうながして、言語活動が増えていくと思います。今の生徒たちは写真より動画の静止画のほうをよく見ていますよね。YouTubeなどで身に付けたテクニックだと思いますが、瞬間を切り取る技術は、生徒のほうがはるかに優れています。「学びのはじめに」を使うことで、先生の教え方も、生徒の学び方も大きく変化していきそうですね。

“生徒たちに何を学ぶ題材なのかをしっかり伝えられる動画です（荻島）”

簡単には用意できない貴重な資料映像も充実！

教科横断のハブとなる美術の学び

高藤　この導入動画は、クオリティも非常に高いですね。先生個人では**簡単に用意できない資料映像など**も使われていて、特に作品周りの情報には驚きました。

POINT.4 参照

荻島　やはり動画の情報量には勝てませんね。生徒は毎日ほかの教科を同時に学んでいます。数学が得意な生徒がいれば数学からの見方、社会が得意なら社会からの見方、その生徒の得意な見方を美術に持ち込んでみてほしい。そんな思いから、**ほかの教科との連携も意図した構成**にしてあります。

POINT.5 参照

高藤　私は常々、様々な教科の学びが集まったものが美術の学びだと思っています。だからこそ美術の授業でいろんな力が発揮できますし、人間として身に付けるものが集まった教科としても教えていけたらと思っています。

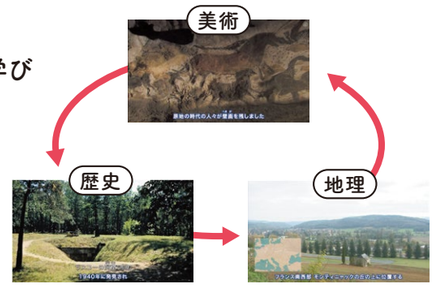
荻島　美術の題材は、様々な教科の学びをリンクさせながら見ると違って見えてきます。それも美術の学びの醍醐味の一つだと思うんです。

高藤　今回、できたばかりの導入動画を全国の先生方に先駆けて見せてもらいました。「生徒に伝えなきゃいけないこと」は何か。「身に付けさせたい力」がどういうものなのか。そこを分かりやすく、授業で使いやすい言葉に噛み砕いてつくられているなと感じました。どんな先生にとっても新たな発見がきっとあると思います。

荻島　もちろんこれを使わなくちゃいけないなんてことはありません！全部じゃなくてもいいし、好きな題材、踏み込みづらい題材だけでもいいんです。生徒たちの反応を見ながら、ぜひ様々な使い方で授業に役立ててください。**導入動画「学びのはじめに」は授業で本当に〝使える〟コンテンツです！**

POINT.5 教科を横断する学び

他教科と関連する題材も多数収録しています。例えば1年生の題材「原始の美に出会う旅」のラスコーの壁画では、歴史や地理の教科との連携も意図した構成になっています。



POINT.4 映像のクオリティは圧巻！

鑑賞中心の題材では、各地の祭りやバチカン美術館の螺旋階段を様々な角度から撮った映像も収録。NHKアーカイブなどの動画ならではの貴重な素材をふんだんに使用しています。

POINT.3 コミュニケーションの見本がいっぱい！

動画のシナリオは、先生と生徒の会話や作品の紹介などが中心ですが、起承転結の「起承」で止めたのがポイント。具体的に述べすぎると、自由な発想を止めてしまうことにつながりかねません。そこを大切に考え、台詞はシンプルな問い掛けに始まり、展開へのヒントで終わっています。

「もうひとつの導入動画」！

教科書のガイダンス動画で授業開きをスムースに。

アクセスはここから！

教科書では、あなたの学びを支える為の要素が

美術1ガイダンス動画より

教科書の構造や内容を紹介するガイダンス動画は、「教科書の使い方」ページと併用すると、さらに使いやすくなります。3分冊それぞれのテーマに沿ってガイドしているので、様々な立場の先生の指導や、個別最適な学習にも役立ちます。

美術1ガイダンス動画より

美術2・3上ガイダンス動画より

前号（NO.332）の特集もチェック！

『形 forme』NO.332の特集「ベテラン先生の引き出し」では、座談会やアンケートで若手の先生の悩みをフォローしています。授業開きや、どこまで教えたらいいかといった疑問に、ベテランの先生が丁寧に応答。動画とともにご活用ください！

学びをつなぎ、成長へ

かいて見つける　わたしのすきなもの　中学年・絵

朝野（あさの）　祥子（さちこ）先生（横浜市立中丸小学校）

授業計画

めあて

試した形・色・感じから表したいことを見付け、工夫してかく。

- 時数：2時間
- 材料・用具
  クレヨン、画用紙、割り箸や竹串、ティッシュペーパーや古布、新聞紙
- 活動の流れ
  - 低学年で使ってきたクレヨンを改めて眺めて、自分のことを振り返る。
  - クレヨンを使った表し方（わざ）を思い出し、確認する。
  - 自分の好きなものや楽しみなことをかく。
  - かきながら、友人と見合ったり話したりする。

題材の目標・評価規準はこちらをご参照ください ▶

3年生の4月は、はじめての理科室、はじめてのリコーダーなど、たくさんの「はじめて」と出会い、わくわくが膨らむ時期。ですが、朝野先生の図工の授業びらきは、使い込んできたクレヨンを見つめるところから始まります。

手立て1　クレヨンを眺めて振り返る

導入では、低学年で使ってきたクレヨンのふたをぱかっと開けて、じっくり眺めることを提案しました。すると、「赤が短い」「いろんな色が付いてる」などの気付きが出てきました。3年生から水彩絵の具を使い始めますが、クレヨンはおしまい！ではなく、これからもずっと使うよと伝えたかったんです。「力を入れて一生懸命かいたときに折れちゃったんだ、覚えてる」「前は赤が好きだったけど今は緑が好き」など、その子なりの思い出や成長も知ることができ、新しい学級での子ども理解にもつながります。児童がお互いのことを知る機会にもなりますよね。

手立て2　学びを言葉でのこす

自分を振り返ったあとは、「1、2年生でやった『わざ』を使って、今の自分が好きなものや楽しみなことを表そう」と提案しました。低学年で積み重ねてきた思いのままにかく経験をベースに、3年生ではどんな「工夫」ができるかも考えられるようになってほしくて、「言葉でのこす」ことを意識しています。「斜めに持つと線が細くなる」「こするとふわっとした感じになる」といった経験は低学年でもしているのですが、次の日には忘れてしまうこともあります。中学年になると、経験から得た気付きを言葉に変換して覚えておくことができるようになります。授業では、クレヨンを使ってできる表し方を「わざ」と呼び、板書しながら確認していきました。言葉とともに子どもの中に「のこす」ことで、高学年にも学びをつなげていくことができます。

手立て3　「自分で選ぶ」経験を積む

活動が停滞している子どもがいたら、やりとりしながら働きかけていきます。例えば何をかいたらいいか分からず固まっている子どもには、「友だちがかいているものを一緒に見に行こう」と声をかけてみます。立ち止まって何かをじっと見つめていたら「○○さんのが気になったんだね。同じものをかいてみる？」と聞くと、「ううん、色は変えてかく」と自分の気持ちが出てくることがあります。「やったことのあるわざはあるかな？」と「わざ」の方からアプローチする方法も考えられますよね。きっかけを与えて、「自分で選んだ」という経験を積み重ねていけば、自分でやりたいことを見付けられるようになっていきます。

手立て4　学びを次の題材につなげる

今回の授業では鑑賞の時間をとらず、最後までかく時間にしました。机を班の形にしていたので、友だちの様子はたくさん見たり話したりしていたし、何より「まだかきたい！」という意欲がすごくて。「あと10分で終わりね」と伝えると「それならあと1枚いける！」と叫んでいました（笑）。振り返りは、今回の経験が生きる別の題材で「こんなことやったよね」と確認する時間をとってもいいなと思って。学びがちゃんとつながっていくことが大事なので、年間を通して身に付けたい力について見通しをもっておくことを大切にしています。

＊本題材は、令和６年度版 図画工作科教科書３・４上 p.6-7 に掲載しています。

Message

「失敗なんてない」と分かれば

今、担任をしている5年生は1年生のときから一緒です。最初は泣いたり叫んだり落ち着かず、図工の授業でも「かきたいものなんてない！」と嫌がる子どももいました。過去に「こうかいちゃだめ」と言われて自信をなくした経験があったんだと思います。だから、「何をかいてもいいんだよ」「今のあなたにしか表せないことだよ」とたくさん伝えてきました。友だちにも「すごいじゃん！」と言ってもらえて、「そっか、失敗ってなかったんだ」と徐々に分かっていったんだと思います。今となっては、自分でやりたいことをどんどん見付けられる子どもばかりで、私は本当に、褒めるところしかないんです。

令和３年度版中学校美術の教科書、どう使う？

村上センセイの

教科書利用のススメ 第9回

教科書の著者である村上尚徳先生と全国の先生が、令和３年度から使用されている教科書の題材をもとに、どんな授業展開ができるかをご紹介するコーナー。生徒の興味を引き出し、新たな気付きや感動に導くアプローチなど、指導のヒントが満載です。

美術2・3上 P.16-17　印象や感情を表す　心のイメージを形に

［学びの目標］

- 形や色彩，その組み合わせに着目しイメージをとらえ，絵の具などの材料を生かして表す。
- 感情やイメージをもとに，形や色彩，構成などの効果を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。
- 感情やイメージなどを形や色彩で表すことに関心を持ち，意欲的に取り組む。

準備物

- ワークシート
- 試し用紙
- 色鉛筆

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標　発想や構想、鑑賞に関する目標　主体的に学習に取り組むための目標

造形的な視点　題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。

授業における学習の「核」とは何か、２つのポイントを語っていただきました。

元木隆久（もとき たかひさ）先生　兵庫県 神戸市立有野北中学校教諭

神戸市出身。小学校での非常勤講師を経て、現職。第 71 回兵庫県造形教育研究大会 神戸大会 授業者。「六甲アイランド彫刻マップ作成と鑑賞教材開発」（神戸市立小磯記念美術館）に関わる。

ポイント①　卒業までに抽象絵画に触れる機会を

元木　本題材は、私がチームティーチングで音楽科の授業に参加し、「魔王」などの音楽鑑賞に触れたことをきっかけにしてつくりました。音のイメージを色や線で表したらどのような感じになるだろうかと、想像が膨らみました。

村上　一年生の段階では「特徴を捉えて描く」ことが基本ですが、二年生になると知的理解が深まって物事を客観視できるようになり「感情やイメージを形や色彩で表現する」ことが理解できるようになります。三年生で自画像や風景画に自身の内面を反映できるようになるためにも、二年生で抽象表現に取り組む意義は大きいと思います。

元木　抽象表現は、写実的な作品と比べて理解しにくく、大人でも敬遠しがちですよね。義務教育期間中に、生徒たちに抽象的な作品の魅力を伝えてから卒業させたいという思いもありました。

村上　本題材は純粋に自分が感じ取ったイメージを表現するという点もいいですね。

ポイント②　抽象と具象の往復で理解が深まる

元木　授業では、音楽から感じるイメージをワークシートに言葉で表現した後、色鉛筆で表現します。最後はワークシートに「振り返り」として作品の説明を改めて言葉で書くようにしています。

村上　歌詞のない音楽という抽象的なものをいきなり表現に落とし込むのは難しいですからね。一度言葉という記号、つまり具象で捉えてから、形や色彩に置き換えていくという手順を踏むことで、生徒たちも頭を整理しやすくなりますね。

元木　振り返りは、当初のねらいにどれだけ近づけたかを自分で確認できると同時に、相互鑑賞でも作品を読み取りやすくなります。私も作品理解を深めることができます。

村上　最初にワークシートに書いた言葉が主題となり、造形的な視点をおさえた振り返りの言葉によって、表現の意図や工夫も読み取れますね。「生みだした主題に対し、どれだけ発想・構想を工夫して表現できたか」が作品から確認でき、抽象表現の題材ながらとても評価しやすいと思います。

元木　写実的表現の得意・不得意の差が出にくいため、「思った通りに描けた！」と生徒たちの満足度も高かったです。

村上尚徳（むらかみ ひさのり）　元IPU・環太平洋大学副学長　元文部科学省教科調査官

岡山県出身。岡山市立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て、文部科学省教科調査官、及び国立教育政策研究所教育課程調査官に。平成20年の中学校美術、高等学校芸術（美術・工芸）の学習指導要領改訂に携わる。

※掲載している教科書は令和3年（2021年）度版 中学校美術科教科書です。

ねらい

音楽から感じたイメージを色鉛筆で表現し、抽象画に親しむ

導入

気持ちや印象を形や色彩で表現できることに気付かせる

最初にモンドリアンやカンディンスキーなどの抽象絵画を鑑賞。解説し過ぎるとそれが正解のような印象を与えてしまうため、「どういうイメージの色なのか」などを共有しながら自由に感じ取ってもらい表現の手立てにする。また、具象的な表現から少しずつ単純化されて抽象的な表現になる習作を見せ、「その人にしかない見え方」や「簡略化による表現の深まり」を読み取らせ、内面にあるイメージを形や色彩で表現できることを理解させる。

人の気持ちの高鳴り、感情の色を表した。

線でリズムを表した。

展開

1 音楽を聞いて感じたイメージを言葉で表す

ある程度イメージしやすい、分かりやすい音楽を選ぶことで、表現が広がり過ぎず、また生徒同士の共感や相互鑑賞での理解も深まりやすくなります。

言語化が苦手な生徒もいるので、近くの生徒と印象を伝え合う時間を設けます。

手が止まっている生徒がいたら「色で表したらどんな色？」など色彩で表現しておくと、描画での色選びもしやすくなります。

「優しい感じ」と表現しても、それが曲調の印象なのか音色の印象なのか、感じる要素に多様性があるのも、音楽のよさですね。

2 言葉で表したイメージを広げながら色鉛筆で形や色彩に置き換える

感じたことを表現する題材なので、その日しかできない表現に1時間で取り組みます。短時間題材は生徒が集中しやすい利点もあります。

色鉛筆の濃淡やタッチなどイメージに近い表現ができているか、試し描きを何回か繰り返してみるのもよいですね。

色鉛筆は大きな失敗をしにくいので、短時間の題材に適した描画材です。時間をかけられる場合は絵の具や立体で表現するのも面白いでしょう。

3 作品を鑑賞し音楽から感じたイメージや表現の違いについて考える

作品をタブレットで撮影し、プロジェクターに投影。表現が面白い生徒には補足で説明をしてもらうなどして、理解を深めます。

描き込み具合などの技能面より、この音楽を聞いたから描けた作品になっているかどうかを重視します。

黒板に曲の進行を表す直線を引き、生徒が着目したタイミングに作品を貼り付けて鑑賞する方法も。どこに着目したかが可視化され、共通点や相違点も鑑賞できます。

指導案はコチラ

緑響く　東山魁夷　長野県信濃美術館 東山魁夷館蔵　／　跳ぶ　岡本太郎　川崎市岡本太郎美術館蔵　岡本太郎記念現代芸術振興財団

まず見る

第三六回

遠近を見る

誰もが知っている作品や、初めて出会うもの。
いつもの見方はいったん忘れて、一緒に新しい見方を試してみましょう。
それまで見えなかった作品の一面が、見えてくるかもしれません。

国宝
『源氏物語絵巻
鈴虫二（絵）』

［紙本著色／21.8×48.2cm］
平安時代・十二世紀
五島美術館蔵

撮影：名橋勝朗

絵についての話を読んだり聞いたりしているとき、おや、これはどうやら「正しい」遠近法が前提になっているぞ、と気にかかることが時折あります。幼児は遠近をきちんと描けないとか、江戸時代よりも昔の日本人は正確な遠近の描き方を知らなかったとか、「この絵はパースが狂っている」だとか。こうした言い方で想定されているのが西洋的な透視図法（線遠近法）であるならば、間違いではないでしょう。けれども果たして、遠近法に対して、正しいとか正しくないとかという価値付けができるものなのでしょうか。

透視図法は、人が見ている世界を疑似的に模すための便利な道具であり、あくまでもひとつの「法」に過ぎません。ところがいつしか、本当の、唯一の、正しい遠近の表し方であるかのように信じ込まれることになりました。これは大変強い信仰になっていて、なかなか解除が難しい。例えば目を片方ずつ開けたり閉じたりすれば、景色は左右にずれる。満月にカメラを向ければ、目で見ていた感じと比べて大幅に小さく映る。あるいは透視図法に厳密に従った絵が妙によそよそしく感じられるときなど、この方法が目をだますための人工的な道具であることに気づく機会はいくつもあるにもかかわらず。実のところ、二〇世紀以降の美術のほとんどはこの信仰の解除という課題に挑んでいると言っても過言ではありません。

透視図法が確立するよりも過去の作例ですが、巧みな遠近表現のひとつを見てみましょう。『源氏物語絵巻』より、二〇〇〇円札（まったく見かけませんが）の絵柄にも採用されている場面「鈴虫 二」です(*)。中央↙にいるのが光源氏、向かい合うのは源氏の不義の子である冷泉院。右上の満月に向いて笛を吹いているのが源氏の嫡子・夕霧です。親子であることを表立って言えない二人が対座し、その事実を知らない子が背を向けている。反復される斜めの平行線と、それに直交して配置される三人の配置に緊張が走ります。天井を取り去って室内を描き、まして手が届くほどの場所に月を描き入れるなど現実の風景とは乖離した記号的な表現ですが、三人の秘密の関係を織り込むにはこれ以外ありえないと思えるほどです。複数の視点を統合して、いわば心理の遠近が描かれているわけです。遠近の表し方とは、単に人の視覚のみならず、私たちと世界との関わりを映し出す鏡であることを教えてくれる優れた一例でしょう。

芸術に触れると、自分が知っているものとは異なるルールにしばしば出会います。というより、いつの間にか信じ込んでしまっている規範に気づき、反省し、それによって自分が何かを「させられている」ことに気づかせることこそが芸術の大きな役割です。

どうか「正しい」遠近法という考えは捨て去ってください。そんなものの、ありませんよ。

(*) 本作の詳細についての素晴らしいガイドがウェブ上で読めるのでぜひご参照ください。倉田実「絵巻で見る 平安時代の暮らし」第二八回「『源氏物語』「鈴虫（二）」段の「秘密の親子の対面」を読み解く」（三省堂「ことばのコラム」（二〇一四年八月二三日）
https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/emaki28

文

成相 肇 なりあい・はじめ

東京国立近代美術館主任研究員。
一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員・東京ステーションギャラリー学芸員を経て、二〇二一年から現職。
主な企画展に「石子順造的世界」、「ディスカバー・ディスカバー・ジャパン」、「パロディ、二重の声」など。

〈今号のひと言〉

部屋を片付けていたら、二〇二〇年頃に集めていたチラシの類が出てきました。緊急事態宣言によるイベント延期や中止のお知らせや、アクリル板の売り込み、あのマスクなど。今はもう手に入らないものがたくさんありますが、渦中にはその貴重さに気づかないものです。こういった時代を象徴的に示す資料の収集も学芸員の大事な仕事です。

『芸術のわるさ
コピー、パロディ、キッチュ、悪』
著者・成相 肇
出版・かたばみ書房
定価・三二〇〇円＋税
A5サイズ／四〇〇頁

東京国立近代美術館展覧会情報
「TRIO パリ・東京・大阪
モダンアート・コレクション」
（二〇二四年五月二一日〜八月二五日）

中美チュービ

中学校美術の先生応援サイト

中美（チュービ）サイトの中から
連載中のコーナーをご紹介！

絶賛
更新中

Vol.12 加藤満喜さん（美術番組プロデューサー）
美術の授業は映像でもっと面白くなる！

Vol.13 tokcoさん（メディカルイラストレーター）
メディカルイラストレーション

つながる美術

“美術でのつながり”で世の中を探って、
あらゆる分野で活躍される人物に
インタビューするコーナー。
昨年の1月より対談形式の動画で
お送りしています。

Vol.14 今井しょうこさん（遺跡発掘調査員／漫画家）
マンガで伝える遺跡発掘

Vol.15 牛久祥孝さん（AI研究者）
AIで変わる美術教育

Vol.16 村山斉さん（物理学者）
物理を発展させてきた絵の力

他にもお役立ちコンテンツがたくさん！

私の指導計画

美術の先生が実際に立てた年間指導計画を学年ごとに紹介、解説します。

vol.04 富山県南砺市立城端中学校
藪 陽介 先生
詳しく解説！ 私の指導計画

指導の悩みABC

指導や授業での悩みや疑問を取り上げ、問題解決へのアドバイスを提案しています。

vol.40 【マンガ】
仏像彫刻の美しさから

大橋功先生★美術のチカラ

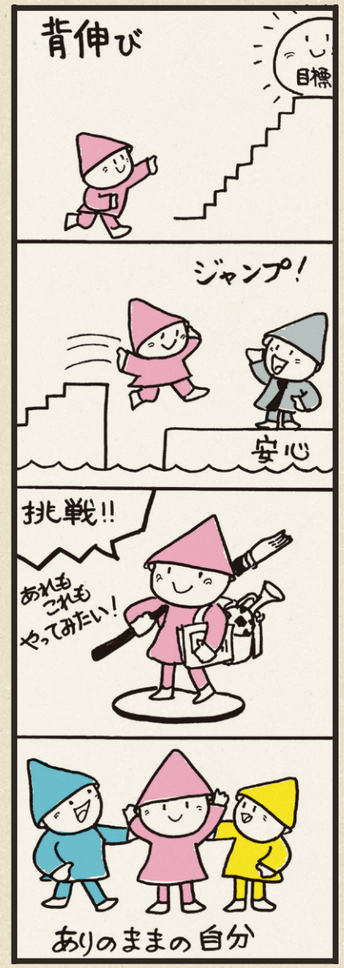
中学校の美術による学びのチカラを、読者と一緒に考えていく連載コラムです。

vol.17 「わび・さび」って何だ？

普段お使いのLINEに
「中美（チュービ）」の
更新情報等をお届けします！

日文 中学美術
LINE

◀ 登録はコチラから！



ABC PICK UP

4コマ漫画で、子どもや図工のことを学べるABCシリーズ。
ここでは、同シリーズから毎号のテーマに合わせた内容を
選んでご紹介します。

今回は「子どものABC」p.31をピックアップ！

成長は「背伸び」と「ジャンプ」

人間は大人も子どもも常に成長し続けています。その成長を止めることはできません。佐藤学は、「成長は<背伸び>と<ジャンプ>の連続である」*といいます。自分の新たな能力を獲得しようと、目標をもち、ジャンプをするのです。そのジャンプを支援するのが学校では先生であり、友だちです。失敗しても受け止めてくれるという「安心」のもとにジャンプすることができるのです。

「安心」「向上心」「好奇心」いずれも、学習の根底にある「心」です。「心」の居場所のある子どもが、自分の力（能力）を発揮しようとジャンプするのです。

今日も子どもは「自分の力」を試そうと、背伸びし新たな目標を見つけ、挑戦しようとしています。その場所が学校であり「教室」なのです。先生も親も「失敗も挑戦の証」として、挑戦することを温かく見守る環境をつくることが大切です。今日、あの子はどんなことに挑戦するのかな。毎日がワクワクです。

*佐藤学『子ども学　第2号』白梅学園大学子ども学研究所　萌文書林　2014

※このコーナーは、ABCシリーズからピックアップしたページを基に、再編集して掲載しています。

ABCシリーズのラインナップ

ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。
また、冊子をお送りすることもできます。

著者紹介
阿部宏行（あべ ひろゆき）

1954年生まれ。元北海道教育大学教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員（平成29年）、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者主査（小学校図画工作）」（平成29年）などを歴任。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。

小学校図画工作科教科書

中学校美術科教科書

高等学校芸術科美術教科書

裏表紙に二次元コードを掲載

表紙作品の動画で授業がしてみたい！

1年

美術1

「グランド・ジャット島の日曜日の午後」
ジョルジュ・スーラ

作品解説は各冊のテーマにも即し、オリエンテーションや題材の導入としても活用できます。1年生では形や色彩を軸に作品を解説し、美術の授業開きの導入にもなっています。

2年

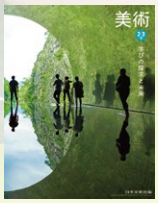
美術2・3上

「『冨嶽三十六景』より 凱風快晴」
葛飾北斎

表紙作品への理解を深めながら、表現の可能性を探る内容です。前すみだ北斎美術館館長・橋本光明さんによる解説も収録しています。

3年

美術2・3下



「Tunnel of Light」
マ・ヤンソン、ダン・チュン、早野洋介／MADアーキテクツ

新しい見方・考え方に導くような問いかけから始まります。作品近辺のロケ映像も収録し、美術と自然との関係を意識できる内容です。

形 forme　No.333-2024

日文教育資料［図画工作・美術］
令和 6 年（2024 年）4 月 30 日発行

編集・発行人　佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261
FAX：06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33715

日本文教出版株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261　FAX：06-6606-5171

東京本社　〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL：03-3389-4611　FAX：03-3389-4618

九州支社　〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL：092-531-7696　FAX：092-521-3938

東海支社　〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F·B
TEL：052-979-7260　FAX：052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL：011-764-1201　FAX：011-764-0690